

令和 7 年度の学校評価（重点目標）

本年度の重点目標	ア 各教科等の資質・能力の育成に向けて、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の活性化を図る。 イ 感染症対策、食育、医療的ケア、防災防犯等、健康と安全に配慮した学校づくりを進める。 ウ 自立と社会参加に向けて、一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を追求する。 エ 主体的、継続的に研修に取り組み、専門性の向上と授業改善を図る。 オ 地域の教育資源や外部の専門家と連携し、社会に開かれた教育課程を PDCA サイクルで実施する。 カ 全教職員の創意と工夫で多忙化を改善し、教育活動の充実を図る。		
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
小 学 部	学びの楽しさを通して、興味・関心や人との関わりを広げ、主体的、自立的な生活に必要な力を育む。	・児童が楽しみながら主体的に取り組めるよう教材教具や支援方法を工夫する。 ・企業や専門家と連携してセンサー等を使用し、タブレット端末など I C T 機器をより学習に活用する。	・個別懇談や部懇談を活用し、児童個々の教育的ニーズを教職員と保護者が共有したうえで実践する。 ・PDCA サイクルにより実践を定期的に見直す。 ・児童の健康と安全を最優先に、緊急時には速やかに協力して医療や家庭につなぐ。 ・学校全体でパナソニック教育財団の助成とデジリハ for スクールプロジェクトの支援を受け、I C T 補助機器の充実を図る。
中 学 部	生活に結びつく学力を育てる。	・生徒の学習意欲を引き出すために、教師間で情報共有し、授業改善のアプローチを図る。 ・「主体的・対話的」で深い学びの実現に向けて個々への支援方法、授業の進め方、環境づくりなどを考えることで、より良い授業実践に努める。	・学年会や教科会だけではなく、O J T を活用し、それぞれの教員がもっている情報や実践例を共有し、生徒情報の共有や教職員のスキルアップに努める。 ・生徒の自発的な活動を促すために、生徒の興味や関心などを考慮した授業展開を意識し、目標、評価を明確に示した分かりやすい授業実践を行う。
高 等 部	卒業後の自立と社会参加を目指した授業実践に取り組む。	・卒業後のそれぞれの自立に向け、できることを増やすことにつながる授業実践に努める。 ・生徒個々の教育的ニーズや支援方法を教職員間で共有し、指導に生かす。	・各教科等の目標を達成するための授業改善に生徒個々の自立に向けた教育的ニーズに応じて取り組む。 ・進路に関する情報や生徒の状況を教師、保護者、関係機関で共有するとともに地域の資源を生かした進路指導に取り組む。
訪問教育	人や物と関わる力を育てる。	・健康確認を密に行い、安定した状態で授業に臨めるようにする。 ・個々の実態把握に努め、発達段階や生活年齢に応じた授業を行う。 ・さまざまな人との関わりやいろいろな刺激が経験できるよう、環境を整える。	・安心して授業が受けられるように感染症予防を徹底すると共に授業前後の時間を活用し、児童生徒の様子を確認して、状態に応じた授業を行う。 ・児童生徒の情報交換を行い、教職員間で相談しながら適切な目標、課題を設定して活動内容を考えていく。 ・行事など児童生徒が人と触れ合える環境を設定するとともに訪問教育の様子を発信していく。
総 務	保護者にとって見やすく、教師にとって入力しやすい「学校だより」の作成方法、配信方法を確立する	・新しい入力ソフト・書式について校務部会で検討する。 ・学校活動の様子がより分かりやすくなるようメールに添付してカラーで配信する。	・個人情報アンケートの書式を、「データ送信をすることについての可否」に変更する。（本年度は別でアンケートの追加確認を行う。） ・学校だより年度初め号については、紙での配布とデータでの送信を両方行う。
教 務	学習指導要領を踏まえた指導の充実を図る。	・年間指導計画を PDCA サイクルで実践し、検証、改善をする。 ・学習指導要領を踏まえて学習活動及び評価の充実を図る。	・年間指導計画の様式や記入例の一部分を変更したので、PDCA サイクルで授業実践を行うことができるように周知していく。 ・年間指導計画と個別の指導計画の関連性を明確にし、3 観点での評価について職員に周知していく。
生活指導	・児童生徒の心の健康状態を把握する。 ・防災対策を強化する。	・心の健康についてのアンケートを実施する。 ・防災への備え、訓練内容、防災組織の動き、マニュアルを見直す。	・特別な対応が必要な児童生徒がいた場合の対応を明確にする。 ・アンケートを実施し、特別な対応が必要な児童生徒がいた場合は、関係職員と話し合い対応していく。また、SC 及び SSW についての情報を教職員と共有する。 ・専門家に防災について相談をする。また、児童生徒及び教職員に対して防災についての情報を周知する。 ・防災物品の充実を図る。

研 修	校内における研究・研修の推進を図る。	・全校研究・特定課題研究の発表や教材教具展などを通して、研究や実践の結果を広く教職員に還元し、今後の授業実践や研究の充実と推進を図る。	・発表の方法等については、教職員の負担にならないよう工夫する。 ・研究や実践に役立つ資料を、広く案内する。 ・すべての教職員が研究や研修に取り組みやすい環境をつくる。
保健体育	児童生徒が給食を楽しみ、安全に食べることのできる環境を整える。	・摂食コーディネーターによる巡回での支援やコーディネーター会での食形態の検討など児童生徒が安全に食事を楽しむことのできる環境を整える。 ・給食週間などの行事を通して食育の充実を図る。 ・感染対策について検討し、周知する。	・巡回指導だけでなく、校内掲示や通信等を利用して情報発信を適宜行うことで保護者、教職員が摂食に対する知識を得やすい環境を整える。 ・関係分掌や機関と協同し、児童生徒が食事に対する意欲を高めることができるようにする。 ・日々の支援指導で児童生徒が感染症に対する知識や対策を習慣化できるようにする。
進路指導	進路選択や卒業後の生活に役立つ情報を児童生徒や保護者、教職員等と広く共有する。	・外部の講師を招き、障害者を取り巻く社会情勢や進路選択に役立つ情報を提供する。 ・近隣の事業所や関係機関との連携を深める。 ・掲示板の充実を図る。	・児童生徒や保護者、教職員等のニーズや関心を把握し、それに合わせた情報を提供する。 ・校内の研修や掲示板を通じての情報発信を充実させ、学校全体でキャリア教育を推進していく。 ・卒業後の生徒が進路先へ円滑に移行できるように、関係機関と協力しながら支援する。
図 書 視 聴 覚	図書へアクセスしやすい環境づくり。	・本棚の空間に余裕をもった配架を行い、本を探しやすく、取りやすくする。 ・本の更新や修繕を図る。	図書利用調査に基づき、本棚やレイアウトの改善を図る。 ・移動図書館や、図書の回収サービスを行い、蔵書の回転率を上げる。 ・蔵書を更新し、図書館をリフレッシュすることで、児童生徒が主体的に読書活動や探究的な活動に参加できるようにする。
情報教育	・教職員が新しい情報機器とシステムを理解し、一人で操作できるようにする。 ・情報機器を使うことで業務の効率化に繋がるようにする。	・情報機器やシステムを教職員が操作しやすいようにマニュアル化することで効率化を図る。 ・校内の教職員に使用方法、使用効果を分かりやすく周知する。	・誰もが操作できるように一番簡単な方法で周知する。 ・いつでも目に触れられるところに資料を配置し、教職員に分かりやすく周知する。
自立活動	一人一人の教育的ニーズに応じた支援や自立活動の指導ができるよう、情報の共有に努める。	・関係する分掌と連携を取りながら、児童生徒、教職員が相談、利用しやすい環境を整える。 ・校内研修や外部専門家活用事業を活用した相談活動を行い、広く校内に伝達する。	・ＩＣＴ機器、コミュニケーション機器、自立活動器具など、多くの人が有効に使える環境づくりを進める。 ・外部講師や校内の人材を活用した研修や相談活動の充実を図り、教職員の専門性を高められるようにする。 ・相談内容を簡潔にまとめて伝達し、教職員で情報を共有する。 ・保健体育部と連携しながら摂食に関する安全な指導の促進に努める。
教育支援	地域の学校や校内への支援を継続的に行い、教育支援機能の向上を図る。	・巡回相談や支援・指導検討会では具体的な情報提供と丁寧な相談活動を実施する。本校の研修会の内容を充実させる。 ・校内外に、支援具や支援方法等を紹介する。	・教育相談や検討会において、参考となる書籍を紹介するなど、今後も使える支援をしていく。また、具体的な支援方法の他、支援の在り方についても伝えていく。 ・支援具の紹介では、具体的な利用例を示すなど、利用を促す紹介を心がける。
学校関係者評価を実施する主な評価項目について		・児童生徒の健康管理や感染症対策を優先に、安心安全な教育環境を整える。 ・児童生徒が主体的に学ぶことを前提とし、学習環境を整える。 ・教職員が研鑽を積むことができるような環境を整える。 ・積極的な校外学習計画や外部専門家の助言を得る機会など、社会とつながる環境を整える。 ・引き続き業務の精選を検討するとともに、教職員の工夫と協力で業務負担を改善していく。	